

令和2年4月にオープンした大池けいあい保育園は、新築設計の時点から感覚統合の考え方を取り入れて環境構成をしています。

保育方針では、「知的教育は一切行わず、遊びを中心とした体験学習の毎日を保障する」ことにしています。安心して失敗できる毎日を保障し、保育内容や行事では子どもたちの意見や発想、発言を出来るだけ活かしながらアクティブラーニングの活動をすすめています。それを支えるための保育士の関わりとしては、「おどさない、せかさない、比べない、叱らない」ように対応し、「待ってあげられる」ことを大事にしています。

- ① 保育室、ホール等の子どもの居住空間の天井は、聴覚過敏の子どもが部屋の反響音で苦しむことを減らしたいと考え、全て吸音ボード（穴あきベニヤの上に吸音材を敷き詰めた構造）にしており、玄関ホールや階段から部屋に入ると声や音の反響が劇的に減ります。
- ② 保育室および廊下の床は、足の感覚機能を育てるため全てヒノキの無垢材にしています。
- ③ ホールの天井には、前庭覚機能を刺激する保育展開に活かせるようにステンレスバーを設置していて、ターザンロープやブランコ、うんていなどを設置できるようになっています。
- ④ 部屋は視覚過敏の子に配慮するため原色系の壁面構成等を貼ったりせず、木材と白と黄緑を基調とした壁面にナチュラルな色合いのものを中心に部屋の構成をしています。棚に置く引き出しや道具箱類にも赤や黄色がまぶしく映らないようにナチュラル系の色を配置するようにしています。
- ⑤ 保育中のお話や給食に集中できるように、遊具棚には自由遊び時間以外は布をかぶせています。遊具が視界に入らなければ、落ち着いて活動できると考えています。よって、3歳以上児の部屋も遊びたい時間以外は、ほとんどの遊具や絵本が収納されていてとてもシンプルです。
- ⑥ 制服やかばん、体操服、カラー帽子もすべて自由なため、同じ色でそろっている場面が全くありません。
- ⑦ 雨の日などに朝から走り回って落ち着かない子のために、ダブルベッドの厚いマットレスを出してあげてトランポリン代わりに跳ばせています。跳ぶのと同時にくるくる回るため、前庭覚と固有受容覚が同時に刺激されるため、動きたい衝動の解消には効果的です。
- ⑧ 開園当初、裸足で外遊びをしようとしたが、子どもたちの違和感が多くて定着するのに時間がかかりました。当然、裸足での外遊びに慣れていないため、足裏が痛くて腰が引けた状態で歩いていたり、思い切り走れないなどの時期がありました。

年長児は夏のプールの経験を積んだ後に、ようやく泥遊びに夢中になりはじめ、9月の活動のメインは泥団子づくりでした。

保育活動としては、毎日ピアノに合わせて30分ほどのリズム遊びと園庭での外遊びを日課としています。リズム遊びで走る、止まる、跳ぶ、まわる、急旋回、柔軟性や瞬発力を育むことを行い、外遊びでの鬼ごっこや「マテマテ遊び」などで遠い場所から近い場所へ視点を動かし視力を伸ばすことと、キョロキョロしながら視界を広げること、さらに紫外線に当たりながら、ブルーライトに侵されない眼力を育てたいと考えています。

0, 1歳児の園庭には、チクチク、ヌルヌル、ベちゃベちゃの感覚を存分に感じられるように芝生と泥山、砂場を設置していて、足、太もも、お尻にも刺激を入れると同時につま先の動きを発達させる目的で山登りや水遊びを存分にさせています。そのため、水道も使い放題にしています。

- ⑨ 紙おむつの子も保育園に来たら布おむつに替えるようにしています。布おむつは業者からのレンタルで、月額 5,000 円（0 歳）です。不快と快の感覚を感じる毎日を保障することを大事にしたいと思っています。開園当初の4月は、2歳児クラスの半数以上がおむつでの生活でしたが、布おむつのおかげで10月時点で全員パンツで生活するようになりました。
- ⑩ 0歳児期から大事な感覚として、手づかみ食べを保障しています。遊んだ後の片づけから着替え、給食への活動の切り替え時間にゆったりと余裕を持ち、焦らず、せかさないうことで、心地よく食事時間を迎えられる。そして、思った通りに両手を使って心地よく食べることで満足を得られるようにしています。
- ⑪ 入園してきた0歳児には、授乳時にも目が合わない子や抱かれる時に体が硬直する子など、気になる子が少なからずいます。そんな子には、目通（まなかい）やタッチケアでのマッサージなどによる肌感覚と目を合わせて心地よい声かけをする毎日続ける中で、目が合い笑顔が出るようになってきました。
- ⑫ 3～5歳児の保育室は大きなワンフロアを高さ 120cmの荷物棚で仕切って3教室にしています。そのため、部屋の音が反響しないとはいえ、保育中の大人の声が大きくなれば子どもの声が大きくなり、フロア中がうるさくなるのが想定されます。そこで、「大人の声の音量を考えよう」と、小さな声で語りかけることを申し合わせています。
- ⑬ 絵本を読むにあたり、子どもたちの視力と視覚刺激を考えて、必ず約2m以内に集まって、子どもの視力の範囲内で背景の視覚刺激を減らして読み聞かせをしています。机に座らせたまま絵本等の読み聞かせはいたしません。
- ⑭ 新設保育園のため、4月に入園してきた子どもたちのほとんどが転園者でした。昨年度の3月までの保育環境において我慢してきた様々なことが、この保育園では制限されない環境だとわかると、7月くらいまではやりたい放題の試し行動でした。保育士は毎日悩み続ける日々でしたが、その子たちの固有受容感を満足させるためには激しく攻撃的な活動が必要不可欠でした。〇〇をやっつけよう。〇〇でたたこう。〇〇を投げつけよう。など、各クラスで様々なストーリーと仕掛けが作られ、子どもたちのエネルギーの発散に試行錯誤でした。
- 鬼だったり、お化けや幽霊だったり、恐竜だったり、黒ビニールで作務衣を作り忍者になって修行と題して、巧技台やはしご、平均台、すべり台、鉄棒を使って渡る、くぐる、よじ登る、飛び降りる、飛ばす、受け取る、振り回す、引き上げるなどの活動を繰り返していました。
- ⑮ コロナ対策で、夏のプール活動も自粛させられるような雰囲気でしたが、園庭に5m×3mのプールを設置し、水遊びをたっぷり楽しむ中で水の抵抗を感じたり、脱力や浮遊感、バランス感覚等が育つと共に、心肺機能を育てられたと思っています。
- ⑯ 乳児期のリズム遊びとして、毎日、心地よくマッサージができる信頼関係と声掛け、ふれあい遊びを行っています。つま先の育ちや土踏まずの形成、体幹を育てるために月齢に応じてハイハイ、高ばい、つかまり立ち、歩く、走る等が出来るようにホールでのリズム遊びやホールの段差登り、山登り、でこぼこ地面でのハイハイ遊びなどを積極的に取り入れています。また、つかむ、つまむ、めくるなどの指先を育てるための遊具や絵本での活動も意識して実施しています。
- ⑰ 幼児のリズム遊びでは、生物の進化の過程にそって、金魚運動、両生類のようなハイハイ運動、四つばい、高ばいなどを取り入れるとともに、音とリズムに合わせて走る、止まる、跳ぶに始まり、心地よく身体を動かしながら距離感や空間認識、速さの調整、力の調整等を身に付けていきます。年齢がすすむに伴い、2拍子、4拍子、3拍子にあわせた動きやなわとびやコマ、お手玉を使っての腕・指・身体の巧緻性を育てています。